

迷子の遊園地 Act 20

【イケナイヨル】

作・藤田ヒロシ

○登場人物

マリエ……………

女・38 デリヘル嬢。年齢を重ね仕事が激減。店の待機部屋でその日暮らしの身。

カリナ……………

女・29 デリヘル嬢。軽度の発達障害を持ち10代の頃からカラダを使って生きている。

アヤ……………

女・21 大学生・デリヘル嬢。学費の為に風俗務めを始める。

ミナ……………

女・24 女優を目指し上京するも騙されAVに出演。その後、精神不安定となり、自殺未遂を繰り返す。

センスイ……………

男・34 生活の為に働き続ける両親。そのお陰でおカネには不自由なく育つが、愛情に関して無感。

チャリティーマラソンのスタートを告げる号砲と歓声。

闇の中響く声（女子アナIIミナ）

声

ランナーに決まって4カ月。最初は5キロも走り切れず、この挑戦を後悔したと言います。しかし、そこからトレーニングを重ね5キロ、10キロ、20キロ……その距離を延ばしてきました。今では走っている時が一番楽しいと言います。一番自分らしくいられると言います。「私は変わった。人は変わる。それを証明する24時間、100キロにしたい」。今年のチャリティーマラソン。両手を振って歓声に応え、笑顔で今スタートを切りました！

歓声

○デリバリーヘルスの待機部屋（深夜）

舞台中央に古ぼけたベッド。

ベッドを背もたれにして座り、マリエとカリナがトランプ（ババ抜き）をしている。カリナの手元に1枚、マリエの手元に2枚のカード。どちらのカードを取るか悩むカリナ。

カリナ

こっち？

と、交互に繰り返しながらマリエの表情を確認する。

マリエ

「曆の上ではもう秋」って、曆を現実に合わせろって感じよね。

カリナ

こっち？

と、マリエの表情を確認する。反応しないマリエ。

マリエ

（反応しないで）ま、だからどうなるってわけじゃないけどさ。

カリナ

こっち？

マリエ

（反応しないで）寝苦しい夜は変わらない。

カリナ

こっち？

マリエ

早くしなっ。

カリナ

こっち！

と、カードを取り、確認して、

カリナ

あー。

と、落胆の声を上げ、次の瞬間マリエを睨むように見て、2枚のカードを切り、構える。躊躇なく1枚のカードを取るマリエ。

カリナ

あ。

ベッドの上にはペアになったカードを捨てるマリエ。

カリナ

あー。

と、落胆の声を上げ、次の瞬間マリエを睨むように見て、

カリナ

もう1回っ！

と、カードを集め、慣れた手つきで切り始める。

マリエ

止め。2人で「ババ抜き」って、全然面白くないっ。

カリナ

面白いって。

マリエ

最後だけしか盛り上がらない。

カリナ

最後が盛り上がれば面白い。

と、カードを配り始める。

マリエ

「ポーカー」やろう。

カリナ

知らない。

マリエ

「セブンブリッジ」

カリナ

わかんない。

マリエ

「神経衰弱」は？

カリナ

嫌い。

マリエ

「戦争」は？簡単よ。

アヤが仕事から帰って来る。手には小さなカバンとビニール袋。小さく頭を下げ、そのまま部屋の奥に消えて行く。

マリエ

(アヤを見ることなく淡々と) お疲れ。

カリナ

(奥に向かって陽気に) お帰り。表通り込んだあ？

アヤの返事はない。

マリエ
ん？

カードを配り終え、会話をしながらババ抜きを始める2人。それぞれのカードを確認し、ペアのカードをベッドに捨ててゆく。時折、奥からアヤの嘔吐する声が聞こえてくるが、反応しない2人。

カリナ
チャリティーマラソン。

マリエ
夜通し走るアレでしょ？

カリナ
(頷く)

マリエ
この辺通るのは明日の夜じゃないの？

カリナ
明日か。

マリエ
好きなの？

カリナ
うん。

マリエ
意外。

カリナ
マリエさんは？

マリエ
興味なし。

カリナ
明日観に行かない？

マリエ
興味ないって言ったでしょ。

カリナ
観れば変わるかも。

マリエ
変わらない。独りで行けば。

カリナ
面白くない。

マリエ
2人のババ抜きは面白くて、独りのチャリティーマラソンは面白くないか。

カリナ
行こ。

アヤが奥から出てくる。

マリエ
(淡々と) お疲れ。

カリナ
アヤは好き？チャリティーマラソン。

アヤ
…これ良かったらどうぞ。

と、2人の間にビニール袋を置く。

カリナ なに、なに？（袋を覗き）あ、ビール！

マリエ どうしたの？

アヤ 貰った。

マリエ 客に？

アヤ どうぞ。

マリエ 自分のは？

アヤ 苦手なんです。

と、部屋を出て行く。

カードを置き、袋から缶を2つ出して1つをカリナに渡すマリエ。缶を開け、無言で缶を合わせ、ゴクゴクと飲む2人。

マリエ （同時に）ばあ。久しぶり。

カリナ （同時に）ばあ。美味しい！

マリエ （缶を見つめ）酔わせて本番狙った？

カリナ まさかあ。

マリエ 今どきビールってのもセンスなさ過ぎだしね。やりたきや、おカネ出せばいいのに。

カリナ （軽い口調で）アヤには無理だよ。（一口飲む）

マリエ （首をかしげ、一口飲む）

カリナ （飲もうとした手を止め、強い口調で）無理！（グビグビ飲む）

マリエ （カリナをじっと見る）

カリナ なに？

マリエ 13で家出して、よく無事にココまで来れたね。

カリナ 「無事」かな？

マリエ こうしてビール飲んでる。

カリナ だね。

マリエ 今日までの2人の「無事」に。

と、缶を掲げるマリエ。

カリナ

無事に。

缶を合わせグビグビ飲む二人。

2人

ぱあああああ。

静寂

カリナ

アタシ、そろそろ帰るね。

マリエ

うん。

カリナ

(立ち上がって) マリエさん。

マリエ

ん？

カリナ

(マリエをじっと見る)

マリエ

なに？

カリナ

な、なんでもない。

マリエ

(一口飲んで) 「1本貰っていい？」

カリナ

へ？

マリエ

カリナの考えてる事くらいわかるわよ。

と、ビニール袋からひと缶出す。受け取るが帰ろうとはしないカリナ。

マリエ

なに？

カリナ

な、なんでもない。

マリエ

この前の話なら答えは変わらないよ。

カリナ

(感情的に) なんで！

マリエ

言ったでしょ。「1+1=2にはならない」そんな簡単で単純じゃないの。明日は？

カリナ

…: 昼過ぎかな。

マリエ

じゃ。

カリナ

…: うん。

と、マリナのカードの一枚をめくり、部屋を出て行くカリナ。

独りになったマリエ。カリナのめくったカードを確認し、まとめてケースに収め、トランプと袋を持って奥に消える。

照明が変わる。

○センスイの部屋（深夜）

舞台中央に古ぼけたベッド。

センスイが寝ているミナをおぶって入って来る。ベッドにミナを寝かせ、じっと見下ろすと、ミナの上に四つん這いになるになるセンスイだが、そこから動かない。やがて、ベッドを降り毛布を掛け、部屋の奥に消えてゆく。

マグカップ（スプーン）を持ってセンスイが入って来る。ベッドから少し離れたところに座る。

目を覚ますミナ。自分に掛けられている毛布とその中の身体を確認する。そして、ゆっくりとあたりを見回し、ようやくセンスイに気が付き、身を固めるミナ。見つめ合う二人。

センスイ（カップを掲げ）飲む？

ミナ（じっとセンスイを見ているだけ）

センスイ スプーン。インスタントだけど。

ミナ（じっとセンスイを見ているだけ）

センスイ 胃に何か入れた方がいいと思うよ。

ミナ 私、寝ちゃった？

と、立ち上がり奥に消え、しばらくして新しいカップを持って戻って来るセンスイ。

センスイ 眠ったと言うより、気を失ったに近いかな。はい。

と、マグカップを差し出す。

ミナ ありがとう。

と、緊張して手を伸ばしカップを受け取るミナ。座るセンスイ。何度か息を掛け、一口飲むミナ。続けて飲んで、大きく息をつく。

センスイ あのビル近いんだ。（窓（客席側）を指し）窓から見えるよ。

ゆっくりと立ち上がるミナ。不安定な足取りで窓に近づく。

センスイ ね？

ミナ どのビルかわかんない。

センスイ そっか。

ミナ なんでビルの屋上に行ったかはわかるけど。

センスイ そっか。

窓の向こうを見ながらスープを飲むミナ。

ミナ 何もしなかったんだね。

センスイ へ？

ミナ 私、服着てる。

センスイ 当たり前だよ。

ミナ (軽い口調で) いいよ、しよ。

センスイ へ？

ミナ 今日、ココに泊めてくれるでしょ？

センスイ え？

ミナ 家出。ネカフェ難民。行く当てのない家ナシ女を泊めて、その代わりにヤル。おカネがないからカラダで。そういうものでしょ？

センスイ ……。

ミナ へロへロちゃん？

センスイ は？

ミナ へロへロちゃんなの？

センスイ 「へロへロ」……。

ミナ 「ちん」

センスイ ……。

ミナ ヤリたくて仕方ないのにヤレない。ヤルことしか考えてないのにヤレない。へロへロちゃん。

センスイ 考えてないよ。

ミナ 男でしょ？

センスイ だからってヤルことばかり考えー

ミナ (遮って、語気を強め) 考えなさいよ！

センスイ はあ？

ミナ (カップを掲げ) こんな段取りいらない！男でしょ？さあ、ねえ。

と、カップに口を付けて、さらに一歩。

センスイ (何も動けないし、言えない)

ミナ 下半身で思考するんでしょ？さあ、ねえ。

と、カップに口を付けて、さらに一歩。

センスイ (何も動けないし、言えない)

ミナ スープだけじゃカラダが温まらないよ。さあ、ねえ。

と、センスイの目の前まで近づく。

ミナ さあ、ねえ。

センスイ シャ、シャワーはあっち。(奥を指して) あっちだから。お湯出るま

でに時間かかるけど、ちゃんと出るから。出るから。

センスイを見ながらスープを飲み干すミナ。

ミナ ごちそうさま、へろへろちん。

と、カップを差し出す。それを無言で取り、奥に消えるセンスイ。

ミナ インポ？ゲイ？それともヤリ方知らないの？「お礼」よ。前払い。

受け取りなさいよ！私にはその価値がないって言うの！へろへろー

カップを置いたセンスイが勢いよく戻って来て、ミナの両肩を掴む。

ミナ ……ちん。

センスイ (語気を強く) ふざけるな！

ミナ なんだヤレば出来るじゃない。

センスイ (語気を強く) なんでだよ！

と、突き飛ばすようにしてミナをベッドに寝かせる。

ミナ そうよ、これでいいの。

センスイ (語気を強く) クソツタレ！

と、覆いかぶさる。

ミナ 痛っ！

センスイ (気弱な声で) あ、ゴメン。

と、反射的に上体を起こすが、ミナがその身体を引き寄せ、

ミナ 止めないで！

抱き合う二人。しかしそこから動かない。やがて、ミナの腕が力なくセンスイから離れる。

ベッドを降りて奥に消えるセンスイ。すぐにティッシュボックスを持って戻ってベッドに置く。

寝たまま手を伸ばし、ティッシュを取るミナ。鼻をすする音。今度はまとめて何枚も取る。すすり泣く声。

センスイ ゴメモー

ミナ (遮って) アンタのせいじゃない。

その声は、泣いている。それに動揺し、どうしていいかわからずに、落ち着かない動きをするセンスイ。ミナに声をかけようともするが、言葉が見つからない。やがて、部屋を出て行こうとする。

ミナ アンタの部屋でしょ。アンタが出てってどうするの？

センスイ でもー

ミナ (遮って) 独りにしないで！

センスイ へ？

ミナ ココにいて。

センスイ え？

ゆっくりと上体を起こすミナ。

ミナ 名前は？

センスイ は？

ミナ アンタの名前。私は……ミナ。

センスイ ……センスイ。

ミナ センスイのせいじゃないから。だから、謝らないで……だから、独りにしないで。

センスイ ……うん。

ミナ 嫌な、昔。思い出したただけだから。

センスイ ……うん。

暗転

闇の中響く声（マリエ）

声 「運動嫌い、走るの嫌い。そんな自分だからこそ、この挑戦を通して伝えられるものがある」この挑戦を決めた思いをそう語っていました。沿道の声援に答え手を振り、笑顔が見えます。その足は1歩、また1歩と確実にゴールに向かってー。あっ！ああああ！！よろめいた！大丈夫か？あっ！ああ！今、止まりました。止まりました！！どこか痛めたのか！？一転、苦痛の表情です。今年のチャリテイーマラソン。スタートから5時間を過ぎ、アクシデント発生です！！

○アヤの夢または過去

ベッドの上で座っているアヤ。遠くを見つめている。

声 諦める？

アヤ （反応しない）

声 もう限界？

アヤ （反応しない）

声 これで終わりにする？

アヤ （反応しない）

声 アヤ！

アヤの母親（マリエ）が現れる。

アヤ ……母さん？

母親 どうするつもり？

アヤ 「どうする」って？

母親 決まってるでしょ？

アヤ おカネならある。

と、自分の身体に触れ、探すが見つからず、驚き動きが止まる。

母親 どこに？

アヤ ある。あるの！

と、ベッドを出て、床を這いつくばり探しまわる。

母親 本当に？

アヤ 本当よ。奨学金が貰えるようになったの。母さんは心配しなくていい。私、独りでやっていけるから。

母親 奨学金？

アヤ そうよ。だから大丈夫。

母親 本当にあるのかい？夢見てるんじゃないのかい？

アヤ ある！ある！あるの！

鼻歌を歌い始める母親。それを止めて、

母親 そんなものはない。

アヤ え？

母親 そんなものは…。

アヤ 「そんなものは」？

母親 わかってるだろ？

アヤ 「わかってる」？

母親 おカネに色はないんだよ。

アヤ あれは私のおカネ。私が学校へ通う為のおカネ。色が付いてる。ど

こ！？どこ！？

と、再び床を這いつくばり探しまわる。

母親 そんなに大切なら、昔から言ってるだろ？自分の物には名前を書きなさい。そうでないと、すぐに誰かに取られてしまうって、世の中そんなもんだってさ。大学生になったのに、そんな簡単なことも覚えられないの？

……。

母親 アンタが「大学へ行きたい」って言い出した時には馬鹿なこと言っ
てと思ったけど、アンタ、イイ子ね。

アヤ 母さん？

母親 塾にも行けず、参考書もともに買えずだったのに、アンタ、イイ子ね。賢いのね。私の子なのにな。

アヤ 母さん？

母親 奨学金ってイイ制度ね。アンタにこんなこと言うものアレだけど、初めて子供を持ってよかったって思ったわよ。ありがとね、アヤ。

アヤ 母さん？！

母親 (膝を折りアヤと視線を合わせて、優しく) 母さんだって「これはアヤのおカネだ」って思ってる。本当よ。でもね、思っ
ていても止められないのよ。どうしようもないのよ。わかってくれるだろ？アヤは、イイ子なものね。

……。

母親 業績がちよっと悪くなれば「はい、クビ」。身体壊せば「はい、クビ」。セクハラ上司の誘いを断れば「はい、クビ」。コツコツ、コツコツなんて続かない。それでもただ生きるってだけでおカネはかかる。(涙声で) 私だって、本当はこんな事しちゃいけないってわかってる。わか
わかってるんだよ、アヤ。でもね、許しておくれ。

と、頭を撫でる。

アヤ ……母さん……母さん……(語気を強め) 止めて！

と、母親の手を払う。

母親 (立ち上がり) アンタは仕事があるじゃない。自分で稼げる。

と、部屋を出て行く。

アヤ
アンタに言われなくても……。

と、ベッドに倒れるように座り込む。

照明が変わる

○デリバリーヘルスの待機部屋（朝）

ベッドの上で座っているアヤ。鼻歌を歌っている。

シャワーを終えたマリエがタオルで髪を拭きながら入って来る。アヤの
姿に驚き、

マリエ
……アヤ！？

アヤ
……。

マリエ
何してるの？

アヤ
……。

ベッドの隅に座り、髪を拭くマリエ。

静寂。

アヤ
マリエさん？

マリエ
なに？

アヤ
……なんでも。

マリエ
（間髪いれず）何か飲む？麦茶残ってたかな。

と、奥へ消える。

再び鼻歌を歌うアヤ。

アヤ
（歌を止め、舌打）

マグカップを二つ持って戻って来るマリエ。

マリエ
良く知ってるね。

アヤ
へ？

マリエ その歌。

アヤ ……母が。

マリエ あ、そ。水しかなかった。でも、氷入ってるからね。

と、マグカップを鳴らしアヤに差し出す。黙って受け取るアヤ。マリエはベッドに座り水を飲む。

マリエ まだ暑いね。

アヤ ……ですね。

マリエ アンタの部屋ってエアコン付いてるの？

アヤ ……一応は。

マリエ 使わない？

アヤ マリエさん。

マリエ ん？

アヤ ……。

マリエ なに？

アヤ (黙って一口飲む)

マリエ 「暦の上では」ってよく言うけどー

アヤ へ？

マリエ 「暦の上ではもう秋ですがまだまだ暑い日が」とか言うでしょ？なんで実際の季節とはズレてるか知ってる？

アヤ (一口飲んで) マリエさん。

マリエ ん？

アヤ ……。

マリエ なに？

アヤ 何を探してココに？

マリエ ん？

アヤ マリエさんの「探し物」ってなんですか？

マリエ (間髪いれず) おカネ。

アヤ 手に入りました？

マリエ 聞かなくてもわかるでしょ？

アヤ (黙って一口飲む)

マリエ ろくに客が付かず、ほとんど待機。アパートも借りられず、この待機部屋が仮住まい。「熟女ブーム」なんて言ったって、行き場のない年増女たちをどうにかする為に供給側が煽ってるだけこと。なににより30超えると身体がキツイ。月の1/3も働けない。本当のブームなんて来たら、過労死続出ね。(少し笑って、一口飲む)

アヤ 本番やつても無理ですか？

マリエ (一瞬驚くが、冷静に) 今よりはいく。でも、想像ほどじゃないよ。

アヤ 一回いくらですか？

マリエ 無理でしょ。

アヤ (語気を強め) 無理じゃない！

マリエ (茶化すように) そう？

アヤ (早口で) 一回いくら稼げますか？店にバレたらクビですか？マジン払えばいいんですか？裏メニューあるんですか？ねえ、教えて下さいよ！

マリエ (黙って一口飲む)

アヤ マリエさん！

マリエ ガキが安売りして価格崩壊してるからね。ホント、アイツらクソツタレ……って、まあ、その流れ作っただの私たちなんだけどね。(一口飲み) 想像以上に負担がかかるよ。病気のリスクもある。身体や心を病むなんて珍しくもなんともない。ナンパ男とノリでヤルのとはわけが違う。おカネの為のセックスって簡単じゃないよ。

アヤ 覚悟は出来てます。

マリエ (小さく笑って) そんなものなんの意味もないし、支えにもならないよ。口で抜いて、ゲロしなくなったら教えてあげる。

と、水を飲み干して立ち上がる。

アヤ 奨学金。母が使っちゃったんです。

マリエ ……。

アヤ あり得ることだって十分に想定できた。だからこれは、アイツの手の出せないようにしておかなかった私のミス！そう、笑っちゃうくらいのは凡ミスなんです。

と、水を飲み干し、次の瞬間、マグカップを振り上げ投げようとする。それをマリエが手を掴んで止める。

マリエ 壊したら弁償よ。店長、100均のじゃ許さないよ。

アヤ コレ、100均でしょ！

マリエ 世の中そんなもん。

アヤ クソツタレ。

もうひとつの手でカップを掴み取るマリエ。それを片づけに奥に消える。

鼻歌を歌い始めるアヤ。

アヤ (歌を止めて)「諦める」。スタートさえ切っていないのに散々言われた。クソツタレの人生。全てを変えたい！大学出て、まともな仕事に付いて、私は人生を買う。

奥からマリエが戻って来る。

マリエ 客は選びなさいよ。でないと、違う方向に全てが変わるよ。

アヤ へ？

マリエ 教えてやるから、朝飯おごりなさい。

と、部屋を出て行く。その後を追うアヤ。

照明が変わる

○センスイの部屋(朝)

誰もいない。シャワーの音が響いている。シャワーを止める音。しばらくして、タオルで頭を拭きながらセンスイが奥から現れる。

センスイ へ？

誰もいない事に驚き、立ち尽くすセンスイ。

センスイ　ま、そうか。

と、ベッドに座り髪を拭く。

センスイ

やりたくて仕方ないのにヤレない。ヤルことしか考えてないのにヤレない。ヘロヘロちゃん……か。間違っではないよ。(寝そべり)でも、正解じゃない。

そこへミナの声。

ミナ　ただいま。

センスイ　へ？

と、慌てて起きる。

ビニール袋を提げて帰って来るミナ。

センスイ　え？

ミナ　(丁寧) た・だ・い・ま。

センスイ　お、おかえり……。

ミナ　出て行っただと思っただ？

センスイ　まあ。

ミナ　悲しかった？

センスイ　……。

朝ごはん作ろうと思って(ビニール袋を掲げ)インスタント食品だけで冷蔵庫中に何もないし、私おカネないし。どうしようと思っただけど……。お礼、今度は出来るよ。キッチン借りるね。

センスイ　あ、うん。

奥に向かうミナだが、戻って来て、

ミナ

不用心だよ。会ったばかりの女を独りにしてシャワー浴びるなんてさ。それもこんなに持つてるのに。びっくりしちゃった。まともな仕事してる人？今日は休み？

センスイ　……。

ミナ　(財布を渡し)くすねてないよ。レシートあるから確認して。あ、

募金はした。やってるじゃない。表通りがチャリティーマラソンのコースなんだね。センスイは募金とかする人？

センスイ
(首を振る)

ミナ
じゃあ、悪いことしちやったね。

センスイ
(財布を開く)

ミナ
でも、お釣りでもらった小銭だよ。

センスイ
(レシートを見て)これって……なに作るつもり？

ミナ
ナポリタンよ。

センスイ
ならベーコンじゃなくてハムじゃない？

ミナ
ベーコンよ。

センスイ
ハムじゃない？

ミナ
ベーコン。

センスイ
ハム。

ミナ
ベーコンですう。

センスイ
(語気を強め)ハムだって！！

静寂

ミナ
(独り言のように) パスタ協会の「昔ながらのナポリタン」のレシピはベーコンなの。

と、奥へ消える。

動かないセンスイ。早口で始めは小声で次第に大きくなり、

センスイ

第二次世界大戦当時。米軍ではトマトケチャップを絡めたパスタが一般的な兵隊の食事だった。GHQが接収したホテルに大量のケチャップと乾麺を残して行った。その後始末の為に、ナポリタンスパゲティーが考案された。具は玉ねぎ、ビーマン、そしてハム。考案者が命名したわけではないがナポリでトマトソースのパスタが人気だったことから「ナポリタン」と言う名前で普及していった。もちろん当時の一般家庭ではハムなどは手に入らず、魚肉ソーセージなどで代用されていた。(間)「ナポリタンスパゲティー」それはもちろんイタリア語でなく英語。

ミナ (奥から) え？なに？

窓の外を見るセンスイ。

センスイ

この国はいつもそう。世界は太平洋の向こうにしかないと思って、指くわえて水平線を眺めている。見てみるよ、窓の外。模倣の果ての壊れた景色。「毎日が同じ繰り返しだ」と嘆き、明日が来る事を信じ切っている白痴の群れが闊歩している。世界の中心に自分たちを描いても、世界の隅っこでじっとして、あれもこれも他人事。僕たちは思考を捨て、隅っこにいる事に慣れ過ぎちゃった。(間) なにも出来ないへろへろちゃん。なにも出来ない。

ミナ (奥から) 何か言った？

誤魔化すように財布に中身を確認するセンスイ。現金はもちろんカード類も。問題はない。レシートを財布に入れる。戻って来て様子を見ているミナ。

ミナ 大丈夫だったでしょ？

センスイ ……うん。

ミナ スパゲティー茹でるんだけど、一応確認。

センスイ なに？

ミナ センスイは…大盛りだよ。

暗転

闇の中響く声 (アヤ)

声

中間地点を過ぎ、その表情は一段と険しくなってきました。同時に一段と大きな声援が背中を押します。その足は一步、また一步と確実にゴールに。あ、ああ、止まりました。また、止まってしまいました。今、サポーターランナーに支えられて歩道に座りこみました。…今年チャリティーマラソン。間もなく20時間が経過しようとしています。完走できるのか？それとも…いや、必ず必ず完走してくれると信じています。

○カリナの夢もしくは過去

ベッドで座っているカリナ。

声 もういいかい？

カリナ ……。

声 まあだだよ。

カリナ ……。

声 もういいかい？

カリナ ……。

先生（アヤ）が現れる。

先生 （軽い口調で）カリナちゃん、独り？みんなは？先に行っちゃった？

カリナ ……センセイ？

先生 一緒に遊んでいたんじゃないの？

カリナ みんな…

先生 （語気を強め）一緒に遊んでたんだよね？

カリナ ……う、うん。

先生 （語気を強め）何して遊んでいたの？

カリナ ……かくれんぼ。

先生 （軽い口調で）そう、それは楽しそうね。

カリナ （小声で）みんな、帰っちゃった。

先生 ン？

カリナ みんな、アタシを置いて、アタシを探さないで、帰っちゃった。

先生 （間髪いれず）そんなことないと思うよ。

カリナ みんな、いないもん。アタシ、独りだもん。

先生 （カリナの頭に手を置き）みんなの方がカリナちゃんが先に帰っちゃったと思ったんじゃないかな？

カリナ へ？

先生 カリナちゃん、隠れるのが上手だから。まるで消えちゃったみたい……いないみたい……上手だから。

と、頭を撫でる。それが次第に強く、激しくなる。

カリナ 痛っ！センセイ、痛い！

と、手を振り払う。

先生 （真顔になり、力強い口調で）ダメじゃない！みんなと仲良く遊ばないと！一緒になって遊ばないと！

カリナ アタシは――

先生 （遮って）カリナちゃんは何も考えなくていいの。言われるままに「はい」「はい」って笑っていれば、それでいいの。

カリナ へ？

先生 （笑って）いいの。そうしていれば、この先も、みんなと一緒にこのクラスにいられるのよ。先へと進める。

カリナ そうしていないと？

先生 進めない。

カリナ どうして？

先生 だってカリナちゃんは1人じゃ歩けないし、走れない。誰かに助けてもらわないといけない子。

カリナ アタシは「1人じゃ歩けないし、走れない子」？

先生 小さくても、弱くても「1」は「1」。そんなことはないの。「1」に満たない人は存在するの。悲しくて、辛いけど、それが現実。

カリナ アタシは「1じゃない」？

先生 そう！わかった？偉いわね。（カリナの頭を撫で）だから「はい」「はい」って笑って、誰かに助けてもらわないと先へは進めないのよ。

カリナ 「はい」「はい」……笑って？

先生 （頷き）わがままも言っちゃダメ。泣いたり、怒ったりもダメ。そうしてイイ子にしていればみんな助けてくれる、一緒に遊んでくれる。探してくれる。わかった？カリナちゃん。

と、頭を撫でる。それが次第に強く、激しくなる。

カリナ

痛っ！センセイ、痛い！

と、手を振り払おうとするが、できない。

先生

（頭を掴み、優しい口調で）わかった？カリナちゃん。

カリナ

……。

先生

（手に力が入り、優しい口調で）わかった？カリナちゃん。

カリナ

……（にっこり笑って）はい、先生！

先生

（カリナを抱きしめて）イイ子ね、イイ子ね、カリナちゃん！わかってもらって先生嬉しい。

カリナ

先生！痛い！

先生

（低く抑揚ない声で）痛くない。（優しい声で）ね、カリナちゃん。

カリナ

（にっこり笑って）はい、先生！

先生

もうどこも痛くないよね、カリナちゃん。

カリナ

（にっこり笑って）はい、先生！

先生

それじゃ、これからはみんなと仲良く遊ぼうね。（カリナから離れ）カリナちゃん、今度かくれんぼする時は先生も誘ってね。

カリナ

と、出て行く。

カリナ

（にっこり笑って）はい、先生！

先生

と、立ち上がり歩き出そうとするが、足が動かない。両手で足を動かそうとするが。動かない。足が動かない。

カリナ

##%\$&##%\$+*\$%（言葉にならない小さな音をこぼす）

と、ベッドに倒れるように座る。

照明が変わる

○デリバリーヘルスの待機部屋（夕方）

ベッドの上に座って遠くを見つめているカリナ。しばらくしてマグカップを二つ持ったマリエが入ってくる。

マリエ はい、コーヒー。

とマグカップをカリナに差し出す。

カリナ (黙って、頭を下げ受け取る)

マリエ 今度買ってきたさいよ。

カリナ (反応しない)

マリエ 安いやつでいいから。

カリナ (反応しない)

マリエ カリナっ。

カリナ は、はい？

マリエ コーヒー、買ってきなさいよ。

カリナ ああ、はい。(コーヒーを飲み) 熱っ！ホットじゃないですか！？

マリエ 目を覚ますならアイスじゃダメでしょ。

と、コーヒーを飲む。

カリナ (コーヒーに息を吹きかけ) いつまで暑いんですかね？昨夜も眠れなくて。

マリエ それでチャリティーマラソンを夜通し見ちゃったわけ？

カリナ (コーヒーに息をかけ、頷く)

マリエ 寝れないのは暑さのせいだけじゃないよね。

と、コーヒーを飲む。カリナも。

静寂

カリナ 観に行きませんか？チャリティーマラソン。

マリエ やっぱり一緒には暮らせない。

カリナ 行こうよ。

マリエ 弱い者同士が手を繋いだところで強くはなれない。弱弱しいだけ。

カリナ 行こ。

マリエ 無理なの。

カリナ

嫌！

マリエ

行かない。

カリナ

「1＋1＝2」にならないから？なんで？なんでダメなの？馬鹿だからわかんないっ！

マリエ

一緒に。それは助け合い？支え合い？違う。足の引っ張り合いよ。

カリナ

わからない！

マリエ

一斤のパンで一日を過ごし、一袋のパスタで何日も過ごし、こんな薄いコーヒーでもたまの贅沢。自分を支えるだけで精一杯、命一杯。何が出来るの？何をし合えるの？私たちは表通りで募金して悦に入ってる連中とは違う。わからないなら、わかってほしい。アタシ馬鹿だから」「アタシ馬鹿だから」「アタシ馬鹿だから」そうやって逃げて、甘えて、いい加減にしたらどう？

カリナ

逃げてるんじゃないもん！

マリエ

逃げてるのよ！1人じゃ何も出来ないくせに、後先考えず家を飛び出して、セックスして寝場所確保して、飽きられて捨てられて、次を探して、セックスして……そうやって生きて来たけど、そろそろ年齢的にそれを難しくなって、今度は私と一緒に暮らす？似た境遇だから「はい」「はい」って笑って頷くと思った？

カリナ

（小さな声で）違うもん。

マリエ

はぁ？なに？

カリナ

（語気を強め）違うもん！アタシの事、何も知らないくせに！！

マリエ

（呼応して）知らないわよ！アンタだって私を知らないでしょ！お互い様。そう。何も知らない。ただココで一緒に客からの連絡を待ってるだけで、友達でもなければ、家族であるはずもない！都合の悪事は口にしなないし、聞かない。口にした事が本当か嘘かなんてどうでもいい。お互い勝手に「似た者同士」だって思ってそれでよしとしてやり過ぎす仲。それ以上を求めて何になるの？何も変わらないし、変えられない。人生は買えないの！

事務所の電話が鳴る。

カリナ

……

黙って奥にマグカップを片づけに行くマリエ。

止まらない電話。

カリナ　　もう！

と、事務所（出口）へ消える。

声（カリナ）　（営業用の明るい声で）はい、お電話ありがとうございます……。。

照明が変わる。

○センスイの部屋（夕方）

誰もいない部屋。シャワーを止める音。やがてタオルで頭を拭きながら
ミナが奥から現れる。同時にセンスイが外から帰って来る。手にはビニ
ール袋。

ミナ　　お帰り。

センスイ　た、ただいま。

ベッドに座るミナ。奥の手前で止まるセンスイ。そして、ビニール袋を
床に落とす。

ミナ　　センスイ？

センスイ　（反応しない）

ミナ　　どうしたー

遮る様にベッドに向かい、ミナを押し倒すセンスイ。四つん這いになり
覆いかぶさる。

ミナ　　（小さな悲鳴を上げる）

センスイ　違うんだ！違うんだよ！

ミナ　　センスイ？

センスイ　違うんだよ！！

ミナ　　な、なにが？

センスイ　へロへロちん。

ミナ　　う、うん。

センスイ
やりたくて仕方ないのにヤレない。ヤルことしか考えてないのにヤレない。違うんだよ……。

と、動きが止まる。

ミナ
（小さくゆっくりと）センスイ？

ベッドから起き上げるセンスイ。

静寂

センスイ
……ゴメン。

ゆっくりと上体を起こすミナ。

ミナ
（ビニール袋を見て）ジュース？

センスイ
へ？

ミナ
（ビニール袋を指さし）それ。飲みたいな。

センスイ
……う、うん。

と、ビニール袋を拾い、奥に行く。

外から人々の歓声が聞こえる。

コップを二つ持って戻ってくるセンスイ。ミナにコップを渡す。

ミナ
なんで夜通し走るんだろうね。暇なのかな？

センスイ
暇だからって夜通し走らないよ。お仕事だから。

ミナ
お仕事？

センスイ
僕なら500万でも嫌だな。

ミナ
おカネの話？

センスイ
おカネの話。

ミナ
チャリティーだよ？

センスイ
チャリティーだよ。

ミナ
おかしくない？

センスイ
おかしくない。

と、二人ジュースを飲む。

センスイ
チャリティー番組でおカネ貰うくらい、企業CM流すくらいこの国ではフツ―だよ。

ミナ
クソツタレだね。

センスイ
クソツタレだよ。

ミナ
アイツらの謳う「愛」はおカネ？「おカネは地球を救う」ってこと？

センスイ
おカネがなければ何も救えないってこと。

ミナ
おカネで救えるなら安いモノ？

センスイ
おカネで片付くなら安いモノ。

ミナ
ちゃんとわかってる？救いが何か？

センスイ
……。

ミナ
「この世はおカネ」。それを否定出来なくなって、言い訳するみたいに「愛」「絆」「まごころ」って口にしてる。でもそれって本当は「この世はおカネ」。そうではない答えを求めちゃってるってこと？

センスイ
観に行く？

ミナ
興味ないんでしょう？

センスイ
興味ないよ。

ミナ
なのに観に行くの？

センスイ
人間だから。

ミナ
へ？

センスイ
ウツカリはある。

ミナ
（笑って）そうね。

センスイ
うん。

ミナ
でも、感動の押し売りだよ。

センスイ
押し売りだね。

ミナ
そう言いながらも、心が動いちゃうよ。

センスイ
動いちゃうね。

ミナ
クソツタレだね。

センスイ　クソツタレだよ。

と、ジュースを飲み干す。

センスイ　お代りは？

ミナ　（首を振り、カップを差し出す）

ミナの Copp を受け取り、奥に消えるセンスイ。窓の外を眺めるミナ。

センスイが戻って来る。

ミナ　ねえ、どのビル？

センスイ　（隣に立ち）あれ。

と、指さす。

ミナ　あんなビルだった？

センスイ　うん。

ミナ　ねえ、どうして？

カーテン開けて外見たら、ミナが立っているのが見えた。「あ、飛び降りるんだな」って思った。で、気が付いたらビルに向かって走ってた。

ミナ　カーテンを閉じれば、それで済んだのに。

センスイ　「見ない振り」は得意じゃない。

ミナ　それって得意不得意の話？

センスイ　違うかな？

ミナ　違うと思う。

センスイ　それに―（言葉が途切れる）

ミナ　それに？

センスイ　ナポリタン、美味しかった。ありがとう。

ミナ　あれはお礼だから、お礼はいらない。っていつても、センスイのおカネだけどね。

センスイ　でも、ありがとう。

ミナ　今度はベーコンじゃなくて―

センスイ (遮って) 今度があるの？

ミナ ないの？

センスイ あるの？

外から人々の歓声が聞こえる。反応しない2人。

ミナ ありがとうね。

センスイ だから、見て見ぬ―

ミナ (遮って) そっちじゃない。止めてくれて。

センスイ あ、あれは……。

ミナ ありがとうね。

センスイ ……うん。

ミナ ねえ、どうして？

センスイ だって、あれは―

ミナ (遮って) どうして？

と、じっとセンスイを見る。それを避けるようにベッドに座るセンスイ。
少し遅れて隣に座るミナ。

センスイ (抑揚なく)「あなたには人を愛せない。それは愛された記憶がないから。あなたのせいじゃないけど、私はそれを背負えない。フツ―の恋がしたい」

ミナ なに、それ？

センスイ 女の子と一度だけ付き合ったことが―

ミナ (遮って) あるんだ。

センスイ 記憶がない位の昔。でも、最後のその言葉だけはハッキリ覚えてる。

ミナ 愛された記憶がないの？ミナシゴ？虐待？

センスイ (首を振って) そうなのとは違う。

ミナ それじゃ、どういうの？

センスイ ……。

ミナ あ、そうよね。昨日今日会った私に言えることじゃないね。

センスイ 「フツー」なんだ。

ミナ へ？

センスイ (淡々と) フツーに両親がいて、フツーに共働きで、フツーに家になくて、フツーに独りぼっちで、フツーに約束は守られなくて、フツーに「また今度」はやって来なくて……それがフツー。そう思ってきた。でも違うのかな？僕は違うのかな？チャリティーマラソンだって「偽善だ」「意味分からない」「インチキだ」って言ったって、観れば結局感動する。苦悩、苦痛の人間見て、その涙見て興奮する。そうだろ？あれこれ言ったってみんな同じで、単純で単純。それがフツー。それはわかってる。なのに、愛とか恋とか……それはわからない。そこだけがゴツソリ欠けている。誰も彼も……肌の色も、髪の色も、目の色も関係なく、出自、学歴、収入に関係なく、誰も彼もが持っているのに……。君を抱けなかった僕はフツーじゃない？君が泣いて止めちゃった僕はフツーじゃない？(間) 教えてよ、ミナ。

しばしの静寂の後、小さく笑い始めミナ。やがて大きな声で笑い出し、センスイを押し倒しベッドに寝かせ、馬乗りになる。

センスイ ……ミナ？

ミナ 自分の欠落を確かめる為に私を拾ったのね。私はアンタが絶望する為の道具ってことね。ならトコトン使いなさいよ。コレはどう？感じない？

センスイ ……止めるよ。

ミナ コレはどう？

と、腰を振る。

センスイ ……止めるよ。

ミナ それじゃ、コレはどう？

と、センスイの股間に手を当てる。

センスイ ……。

ミナ ねえ、どうなのよ？へろへろー

言葉が途切れ、黙ってセンスイから降りるミナ。奥に行き、すぐにティッシュボックスを持って戻ってベッドに置く。

寝たまま手を伸ばし、ティッシュを取るセンスイ。鼻をすする音。今度はまとめて何枚も取る。すすり泣く声。

ミナ
ゴメン。

センスイ
ミナのせいじゃないから。謝らないで。

ミナ
ううん。ゴメン。

と、センスイとは離れた位置のベッドの座るミナ。ティッシュを手にし、涙を拭く。

しばしの静寂の後で、不自然な明るい声で話しだすミナ。

ミナ
私さ、夢があったんだ。

センスイ
……（鼻をかみ）うん。

ミナ
それだけ？フツー「なに？」とかって一応聞かない？

センスイ
……（鼻をかみ）うん。

ミナ
もういい。女優になりたかったの。

センスイ
……（鼻をかみ）うん。

ミナ
それだけ？「へー」とかって一応驚くか、大笑いしない？

センスイ
……（鼻をかみ）うん。

ミナ
もういい。

センスイ
（鼻をかみ）うん。

ミナ
「女優になりたい」育った街には大手養成所の分校っていうのがあって、16の時から通って、レッスン受けて、頑張ったんだよ。何度かローカルだけどCMなんかにも出たりしてさ。

センスイ
（鼻をかみ）うん。

ミナ
「絶対に女優になる」。この街に来て、オーディション。片っ端から受けて、頑張ったんだよ。何度か小さな劇場だけど舞台なんかにも出たりしてさ。

センスイ
……うん。

ミナ
「女優へのスタート」。なんでも貪欲に吸収。セミナーにワークショップ。片っ端から受けて、頑張ったんだよ。そして、小さな事務所

「ただ声掛けられた。「女優になれる」。それまでの努力が実を結んだ……。」

センスイ

……。

ミナ

（早口になり）月謝を払えばレッスンは受けられて、ローカルCMなんて月謝払い続けていたお返しみたいなので、チケットノルマ負担するから舞台には立たせてもらえて、ワークシヨップは監督や演出家の小遣い稼ぎで、どれもこれも「次」には繋がってはいない。結局おカネ。でもさ、私は無い上がって専属契約書にサインをしたの！（両手で顔を覆い）（間）（震えた声で）「宣伝素材としてイメーヂビデオを作ろう」……水着になるとは聞いていた。でも、聞かされていなかった。制服、白衣、スーツ、いろんな衣装で撮るとは聞いていた。でも聞かさせていなかった。（顔を上げ）知らなかったのよ！コレっぽっちも疑わなかった！その瞬間が来るまで、私は信じていた。馬鹿みたいに……。カメラの前。ソファーに座って、気が付いたら隣に男の人。服は着ていない。下着だけ。「聞いていない」「そんなつもりじゃない」声にできない。「夢が閉ざされるから」……違う！計算なんて出来ない。男の人たちがじっと食いつくように、舐めるように私を見ている。心も身体も何もかも動かない。「よろしくね」。返す間もなく、髪を触られ、唇を触られ（自分で触れ）キスされて、胸を触られ、股に手が入り（自分で触れ）（抑揚なく）服が脱がされ、下着が脱がされ、股に手が導かれ……イヤ、ヤメテ、イヤ……声にならない。イヤ、ヤメテ、イヤ……心も身体も押さえつけられ——（言葉に詰まる）

センスイ

……。

ミナ

……腕は、二本じゃなかった。

静寂。

ゆっくりと立ち上がり、窓の方へ数歩進むミナ。

ミナ

（異様に明るい声で）私さ、夢が叶ったんだ！女優。なったのよ！夢見たのとは違うけど、ちゃんとカメラの前で——

と、言葉が途切れる。

ミナ

（小さく）消して。

センスイ

へ？

ミナ

（抑揚なく）消して……。消して、消して、消して、消して、消し

て、消して、消して、消して……、消して！！（間）（奇声、叫び）
 ●& \$& ▲×\$ ■+%○&▽#&#!!!!!!!

事切れたように床に倒れる。

静寂。

ミナ
 （反応しない）

センスイ
 僕には僕の理由があって屋上に行った。

ミナ
 （反応しない）

センスイ
 「見ない振り」は得意じゃない。それは嘘。今夜、表通りをチャリ
 ティーマラソンが通る時、あのビルから落ちるつもりだったんだ。
 ミナが先にやっちゃたら、屋上に上がれなくなるだろ？

ミナ
 ……。

センスイ
 （一言、一言絞り出すように）誰も彼もクソツタレ。欠落を埋める
 何かを、消せない過去を隠す何かを、這いつくばって、這いつくば
 って、探し続けて、見つからない。その何かの正体を知らないんだ。
 無理な話。心が悲鳴も上げられないまで疲れ果て。ビルの屋上に立
 つ。絶望。それと正面から向き合って、生と死の境を確認して、自
 問する。何かを探し続ける……見えないゴールを目指し走り続ける、
 その覚悟。それが心の何処かに残っているのか？希望がないなら絶
 望。せめてそれくらい簡単にしたいよね。

と、倒れているミナを抱えようとする。その途中で、

ミナ
 いいよ。覚悟。残ってなかったら、一緒に落ちてあげる。さあ、行
 こう。

と、センスイに抱きつくミナ。

センスイの手がゆっくりと動き、ミナを出し返す。

暗転。

○デリバリーヘルスの待機部屋（夜）

ベッドの背もたれに座り、マリエが独り、トランプを弄んでいる。そこ
 へカリナが入って来る。

カリナ

ただいま。

と、ベッドに座る。

マリエ

おかえり。やる？

カリナ

(首を振る)

マリエ

(トランプをしまい) もうじきゴールだね。

カリナ

興味ないんでしょう？

マリエ

カリナは好きなんですよ？

カリナ

騒いでるのって寂しくないから。それだけ。

マリエ

「2人でやるババ抜き」と同じってことか。

カリナ

…。

マリエ

やっぱり、やる。(トランプを出し、切り始め)アヤが戻ってきたら

3人でやる？後輩なんだから付き合えて感じよね。

カリナ

アタシがやる。

と、マリエからカードを取り、切り、配り始める。

アヤが仕事から帰って来る。手には小さなカバンとビニール袋。二人に

反応することなく早足で奥に消えて行く。

カリナ

アタシ、マリエさんの事何も知らない。だけどねー

遮る様に奥からアヤの激しく嘔吐する声が聞こえてくる。続いて激しい

シャワーの音と押し殺した泣き声。

カリナ

アヤ！？

トランプを放り投げるようにして勢いよく奥に飛び込むカリナ。

カリナ

(奥から) マリエさん、アヤが…。

マリエ

(トランプをまとめる)

カリナ

(戻って来て) アヤが…。

マリエ

最初だから。

カリナ

知ってたの？

マリエ

今以上におカネがいるんだって。

カリナ 止めなかったの？

マリエ 教えてあげた。

カリナ はあ！？なんでよ！？

マリエ 「知りたい」って言うから。

カリナ だからって……なんでよ！？

淡々とカードを配り始めるマリエ。それを床にはたくカリナ。

マリエ 朝飯、おごってくれたから。

カリナ はあ！？だからって――

マリエ (遮り) 他に何ができるわけ？あと出来る事って言ったら傍観。そ
ちちの方がいい？アヤが地獄に堕ちて行くのを眺めてる？

カリナ ……。

マリエ せめて正しく堕ちて行く道を教えてあげるしかないじゃない。

と、カードを拾う。

カリナ 足し合えない？助け合えない？分かち合えない？私たちは、出会っ
た。そんなことに意味はない？

マリエ ……。

カリナ 私は「ノータリン」「出来ない子」「残念な子」「生まれてこなければ
よかった子」。今、ココがあるだけでいい。それでも十分。2人でや
るババ抜きだって楽しい。居場所があるだけで幸せ。だから、ココ
でおカネ稼ぐ、でいい。それは出来る。人生を買うにはおカネが必
要。だから、アタシを使って！

マリエ 無理よ。

カリナ アタシだけじゃ足りない。でも、足して！アタシを数に入れて！

マリエ (間髪入れず) 出来るわけないでしょ！

カリナ (悲痛に) な、な、なんで！？

マリエ 正真正銘、私がクソツタレだからよ！

アヤの押し殺した泣き声が聞こえてくる。

カリナ (悲痛に) わかっている！

マリエ はあ？

カリナ (悲痛に) 私たちは何も知らない。語らない。でも、ちゃんと伝わってる。だから、アタシは一緒にいたい！

マリエ ？

カリナ 年に一度じゃない。毎日ずっと見てるんだよ。

外から人々の歓声が聞こえる。力なくベッドに倒れるように座るマリエ。

照明が変わる

女子アナの声が響いてくる。(カリナ)

声 身体はもう限界を超えている。心も折れる寸前。しかし、決して止まらない！諦めない力。自分を信じる力。ゴールへ。一步、また一步、その走りは確実にゴールに向かっていきます！！「私は変わった。人は変えられる。それを証明する24時間、100キロにしたい」。その思いが間もなく完結します。今年のチャリティーマラソン。スタートから23時間！まもなく感動のゴールです！！

○マリエの夢または過去

ベッドの上で座っているマリエ。遠くを見つめている。

アヤの幼馴染・ミハル(カリナ)が声をかける。

ミハル あーそぼ。

マリエ (反応しない)

ミハル あーそぼ。

マリエ (反応しない)

ミハル あーそぼ。

ミハルが現れる。

ミハル 待って。独りで行かないで。置いて行かないで。

マリエ (反応しない)

ミハル マリエちゃん！

ハッと反応し、ミハルを見るマリエ。

マリエ ……ミハル？ミハルなの？

ミハル ミハルだよ。子供の頃みたいに「ミハルお姉ちゃん」って呼んでよ。ねえ、マリエちゃん。

マリエ ……ミハル……違う！アンタは「お姉ちゃん」じゃない。ただ隣に住んでた一つ上の女の子。

ミハル 「お姉ちゃん」って呼んでくれたじゃない。

マリエ 知らなかったのよ。

ミハル なにを？

マリエ 「本当の姉妹のようね」「いつまでも仲良くしてあげてね」。その言葉に込められた思いに気が付いた時、全てが変わった。あやとり、おはじき、おままごと。アンタはいつも同じ遊びをしたがったよね。幼稚園に入っても、小学校に上がっても、私が飽きても同じ遊びをしたがった。神経衰弱が嫌いで、ババ抜きが好きだった。「お姉ちゃん」。ごっこ遊びでさえ求められなくなった。アンタは私の少し前を歩いて、走ってもいなくて、気が付けばいつも後ろから…。「マリエちゃん、いる？」「マリエちゃん、遊ぼう？」「マリエちゃん、待って！」「マリエちゃん」「マリエちゃん」「マリエちゃん」…ウンザリだったんだよ！

ミハル マリエちゃん…。

マリエ 黙れ。

ミハル マリエちゃん…。

マリエ 黙れ！！

ミハル マリエちゃん…。

マリエ 黙れ！！

と、ミハルの首を絞める。

ミハル (小声で) マリエちゃん……痛い、苦しい。

マリエ 黙れ！！

ミハル マリエちゃん……痛くて、苦しいのね。

マリエ
え！？

と、驚きその手を離す。

ミハル
アタシ、おまじない知ってるよ。

と、マリエに近づく。

マリエ
私は……。

ミハル
大丈夫だよ。マリエちゃん。(マリエの胸に手を当て) 痛い、痛いの、遠いお山に飛んで行け！

マリエ
私は……。

ミハル
(にっこり笑って) これで大丈夫だよ、マリエー

マリエ
(遮って) うっとうしかったんだよ！！

と、ミハルを突き飛ばす。床に倒れるミハル。

マリエ
私は……アンタから逃げたかった。「いつまでも仲良くしてあげてね」「優しくしてあげてね」「助けてあげてね」。思いは願いとなり、願いは要求となった。「ミハルお姉ちゃん」。変わらず呼び続けた……けど……そう呼ぶ度に、私の心には黒いシミがポツン……ポツン……ポツン……ポツン……ポツン……ポツン……。

と、「ポツン」と吐く度に自分の胸を指さし、最後にはそれは拳で強くなる)

マリエ
(胸に爪を立てるようにして) このシミを消したくて……消したくて、消したくて……同じ中学には行かず私立に行けば解放される。勉強、勉強、勉強。全ては解放される為。ゲームもアイドルも初恋も視界に入れず、全ては自由を手にする為。模試の成績は上々。努力すれば希望は叶う……はずだった。「ウチに私立に行かせるおカネはない」。たった一言。ポツン。子供の私に大人の言葉に抗う術はない。ポツン。黒いシミに侵され続ける時間が再開される。ポツン。セーラー服が届いた夜、それをカッターで切り刻んだ。ポツン。私は最初の絶望と向き合った。ポツン、ポツン。ずっとよ！向き合い続けている。ポツン、ポツン。ずっとよ！消えないの。ポツン、ポツン。ポツン、ポツン。解放して、消して、消えて……お願いよ。

と、最後は振り絞り、涙する。

ゆっくりと立ち上がるミハル。

ミハル

私は自由を奪う？優しさと助けを求める？

マリエ

……そうよ。

ミハル

(間髪いれず) 違う！

マリエ

(間髪いれず) 違う！「マリエちゃん、いつまでも仲良くしてあげてね」「マリエちゃんは優しい子ね」「マリエちゃん、助けてあげてね」。いつだって一方的に求めるだけじゃない！！

ミハル

違う！

マリエ

一度ついた黒いシミは消えないの！これ以上侵され全てが染まったらシミであることを忘れて、偽善を愛だと思ひ込むしなくなる。そこには絶対イキたくない！

ミハル

違う！

マリエ

違う！

ミハル

違うよ！！アタシが言ったんじゃない！

マリエ

(ハッとして、言葉を返せない)

ミハル

いつだって求めているのはアタシじゃない！優しさと助け。確かに必要。でもそれって、誰も彼も。だから一方的じゃないし、いつもじゃない！！求めるだけの自分じゃ……辛い……悲しい……生きれないよ……生きれないんだよ！！

と、マリエにゆっくりと近づく。

マリエ

止めて。

ミハル

(首を振る)

マリエ

止めて。

ミハル

(首を振る)

マリエ

止め――

遮る様にマリエを抱きしめるミハル。

ミハル

わかってたよ。ゴメンね。それでも、マリエちゃんが好きだったから、一緒にいたかった。後ろについて行くことしか出来ないけど、一緒に走りたかった。ゴメンね、マリエちゃん。出会ってしまったから、苦しめちゃったね。「生まれてこなければよかった子」だよね、

アタシ、やっぱり。

と、腕を離し、離れる。

マリエ

……違う！違う！！違うの！ミハルお姉ちゃん！！

と、ミハルに手を伸ばすが、バランスを崩してベッドに倒れるように座る。

照明が変わる。

○デリバリーヘルスの待機部屋(夜)

ベッドに座っているマリエ。それを見つめているカリナ。

カリナ

マリエさん。

マリエ

……なに？

カリナ

私たちはビンボウなだけだよね？

マリエ

……はあ？

カリナ

おカネがないだけならビンボウ。おカネがなくて、誰とも繋がりがなくなつて、独りぼっちになったらヒンコン。なんなだつて。ヒンコンには助け合いも、分かち合いもない。独りぼっち。

シャワーを止める音。

カリナ

私たち、もう間に合わないのかな？今からじゃ遅いのかな？

奥からアヤが戻って来る。服を着たままシャワーを浴び全身濡れている。手にはビニール袋。見た目とは裏腹に明るく話します。

アヤ

(異様なほど明るく)あれ？ババ抜きやらないんですか？今日は一緒にやろうと思つたのに。買ってきたのに。(と、ビニール袋を掲げ)今日はちょっと稼げたんです。戻れない道への扉を開けた。その覚悟。ご褒美なんです。付き合つて下さいよ。

と、ビニール袋を差し出すがマリエもカリナも受け取らない。奥に消えるカリナ。

アヤ

あれ？カリナさん？

タオルを持って戻って来るカリナ。それで包み込むように抱き締める。

アヤ
ど、どうしたの？カリナさん。

カリナ
……。

アヤ
カリナさん？痛いよ……（声を荒げ）離して！

カリナ
風邪ひいちゃう。

アヤ
私は諦めない！戦う！フツーに生きるだけなのに、その為に戦わな
いといけないなんてクソツタレだけど、嘆いているだけじゃ、望む
明日はやってこない。戦って、戦って、戦って、勝てなくとも、負
けない。負けてたまるか……！（カリナに）何よ！ノータリン！離せ！
ノータリン！止めて！ノータリン！

と、カリナを振り払う。

また他包み込もうとするカリナ。しかし、2人の間にマリエが入リアヤ
の頬を叩く。

静寂。

動きが止まったカリナをタオルでしっかりと包み込むカリナ。次の瞬間
に抱き返してくるアヤ。

アヤ
強引にヤラれたわけじゃないよ。酔ってヤラれたわけじゃないよ。
私から……自分から……身の丈に合わない人生を……わかってる。
だから、これは、その罰。ちゃんと――

カリナ
（遮って）何も言わなくていい！いいから。

アヤ
優しくなんてしないで！！嫌だあ、止めてえ、嫌だあああああ。

と、子供のように泣く。抱きしめるカリナ。

カリナ
アヤ、着替えよ。風邪引いちゃうよ。

と、アヤを奥につれて行く。

カードを拾い集め、切っているマリエ。その手を止め、じっと見つめる。
次の瞬間、自分の頬を叩く。

暗転。

闇の中響く声（センスイ）

声

体力は限界を超え、苦痛に表情が歪み、この目に映すことも辛い。しかし、その足は一步、また一步とゴールへと向かいます。だから、この目を反らすことはできない。24時間。100キロ。なぜ走るのか？その理由がこの姿そのものにある。覚悟を持った魂の走りだ！（間）今、交差点を右に折れ、あと500メートルだ。頑張れ！顔を上げた！頑張れ！その目にゴールは見えたか！？頑張れ！今年のチャリティーマラソン。いよいよ感動のフィナーレの時を向けます！！

大きな歓声。

○デリバリーヘルスの待機部屋（翌夜）

ベッドを背もたれにして座り、マリエとカリナがトランプ（ババ抜き）をしている。カリナの手元に1枚、マリエの手元に2枚のカード。どちらのカードを取るか悩むカリナ。

カリナ こつち？

と、交互に繰り返しながらマリエの表情を確認する。

マリエ アンタ、コーヒー買ってきた？

カリナ こつち？

と、マリエの表情を確認する。反応しないマリエ。

マリエ （反応しないで）安いのでいいから、買ってきなさいよ。

カリナ こつち？

マリエ （反応しないで）ちよつと、聞いているの？

カリナ こつち？

マリエ 早くしなっ。

カリナ こつち！

と、カードを取り、確認して、

カリナ ああー。

と、落胆の声を上げ、次の瞬間マリエを睨むように見て、2枚のカードを切り、構える。躊躇なく1枚のカードを取るマリエ。

カリナ
あ。

ベッドの上にペアになったカードを捨てるマリエ。

カリナ
あぁー。

と、落胆の声を上げ、次の瞬間マリエを睨むように見て、

カリナ
もう1回っ！

と、カードを集め、慣れた手つきで切り始める。

マリエ
止め。2人で「ババ抜き」って、全然面白くないっ。

カリナ
面白いつて。

マリエ
最後だけしか盛り上がらない。

カリナ
最後が盛り上がれば面白い。

マリエ
「ポーカー」やろう。

カリナ
知らない。

マリエ
「セブンブリッジ」

カリナ
わかんない。

マリエ
「神経衰弱」は？

カリナ
嫌い。

マリエ
「戦争」は？一度やったらハマっちゃうよ。

アヤが仕事から帰って来る。手には小さなカバンとビニール袋。

マリエ
（アヤを見ることなく淡々と）お疲れ。

カリナ
（奥に向かって陽気に）お帰り。

アヤ
ただいま。

と、奥に消える。

奥からアヤの嘔吐する声が聞こえてくるが、反応しない2人。

カードを三つに配るカリナ。

マリエ
チャリティーマラソン、ゴールしたの？

カリナ
したんじゃない。台本通りに。

マリエ 何その言い方。好きなんじゃないの？

カリナ 好きなんかじゃないよ。

マリエ はあ？

カリナ 「興味ない」は不感症のクソツタレ。「嫌い」はしたり顔のクソツタレ。「好き」は見たいものしか見ないクソツタレ。憧れたけど、なれそうにもない。

アヤ と、カードを配り終える。その時アヤが奥から出てくる。

アヤ これ良かったらどうぞ。

アヤ と、2人の間にビニール袋を置きベッドに座る。

カリナ なに、なに？（袋を覗き）あ、ビール！

マリエ 客に貰ったの？

アヤ どうぞ。

アヤ と、ひと缶取り出す。

カリナ それビールじゃない。

アヤ 苦手なんで。

マリエ リクエストしたの？

アヤ 利用できるものはしないと。

マリエ だね。

アヤ と、ひと缶取る。カリナも続く。缶を開ける三人。マリエはすぐに飲もうとするが、カリナとアヤは缶を差し出す。

マリエ 今日までの3人の「無事」に。

カリナ （同時に）無事に。

アヤ （同時に）無事に。

アヤ 缶を合わせる、飲む三人。

マリエ （同時に）ばあ。上手い。

カリナ （同時に）ばあ。美味しい。

アヤ （同時に）ばあ。最高。

缶を置き、カードを取り、ババ抜きを始める三人。

一喜一憂しながら、ゲームが進み、マリエのカードが残り1枚。

カリナ

待って！

と、自分のカードを念入りに切ってマリエに向け、

カリナ

いいよ。

ずっと手を伸ばすがマリエだが、一瞬手を止め、カリナの表情を見てカードを取り、確認。そして、小さく微笑む。

FIN

○キャスト

マリエ……………北澤さおり
カリナ……………辻ゆう子
アヤ……………水野史奈子
ミナ……………酒井麻衣
センスイ……………日浦カズトシ

○スタッフ

演出……………藤田ヒロシ
音響……………土谷侑子
照明……………白柳友紀
制作……………れい子／東桜子

○公演情報

日にち……………2016年12月3日・4日
時間……………3日・19時／4日・13時
会場……………このみる劇場